

水稻の生育状況と今後の管理対策（第4号）

令和6年7月2日
新潟県農林水産部

〔7月1日現在の県内全域の生育概況〕

- ◎ コシヒカリでは指標値（生育のめやす）に比べ、草丈は「長い」、茎数は「やや多い」、葉数の進みは「やや早い」、葉色は「並」の状況です。
- ◎ 新之助では指標値に比べ、草丈は「長い」、茎数は「やや多い」、葉数の進みは「並」、葉色は「濃い」状況です。

〔気象予報と今後の生育見込み〕

- ◎ 6月27日発表の北陸地方1か月予報（6月29日から7月28日）では、平均気温は高く、降水量は平年並みか多い、日照時間はほぼ平年並み、6月25日発表の北陸地方3か月予報（7月から9月）では、向こう3か月の気温は高いと予報されています。
- ◎ コシヒカリと新之助では茎数はやや多く過剰生育が懸念されます。
- ◎ 今後も高温が予想されるため、水稻の生育は平年より早まり、幼穂形成期および出穂期は平年より早まる見込みです。

〔今後の管理対策のポイント〕

コシヒカリ

- ◎ 出穂期は平年より3日程度早まる見込みです。
- ◎ 中干し^{*1}は遅くとも出穂期の1か月前までに終了しましょう。終了後は浅く水を入れ、徐々に飽水管理^{*2}へ移行してください。
- ◎ まもなく下位節間が伸長する時期になります。ほ場間差が大きいので必ず穂肥診断を行いましょう。
- ◎ 登熟期間の稲体が栄養不足にならないよう、適切に穂肥が施用できる準備をしましょう。
- ◎ 基肥にケイ酸質資材を入れていないほ場では、ケイ酸質資材を施用しましょう。

新之助

- ◎ 指標値に比べ生育量が大きくなっているほ場では、乾かしすぎに注意しながら中干しを継続し、茎数の増加を抑えてください。
- ◎ 新之助はいもち病に弱く、葉色も濃いため、ほ場で葉いもちの発生を注意深く観察し、発生が確認された場合は、速やかに薬剤防除を行ってください。

早生品種

- ◎ 生育が早まっています。地域の農業普及指導センターやJA等の技術情報を参考に、幼穂の長さを確認し、遅れずに穂肥^{*3}を施用しましょう。
- ◎ 梅雨入りし、いもち病に感染しやすい気象条件が発生しています。葉いもちの早期発見に努め、病斑を確認した場合は、速やかに薬剤防除を行ってください。

*1 中干し（なかぼし）：田の水を落として、一時的に田を乾かし、稲の生育量を適正に保つ作業のこと

*2 飽水管理（ほうすいかんり）：土壌を湿潤状態に保つこと

*3 穂肥（ほごえ）：穂が出る前に行う追肥のこと

病害虫防除

- ◎ 斑点米カメムシ類による被害を防止するため、計画的な除草と防除を徹底し、カメムシ類の密度を抑えてください。

熱中症予防

- ◎ 湿度が高まり、蒸し暑くなると熱中症の発生リスクが高まります。
- ◎ 溝の手直しや穂肥施用など、屋外での農作業時には、水分補給や休憩時間を十分に確保するなどの熱中症予防と健康管理に十分注意してください。農道・畦畔の草刈り作業では周囲に気を配り、農作業の安全対策にも十分配慮してください。

〔補足資料〕

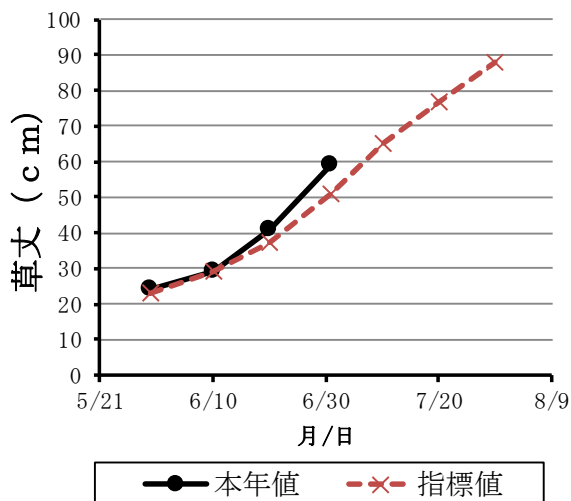
1 農業普及指導センター及び作物研究センターの生育状況（7月1日現在）

コシヒカリ

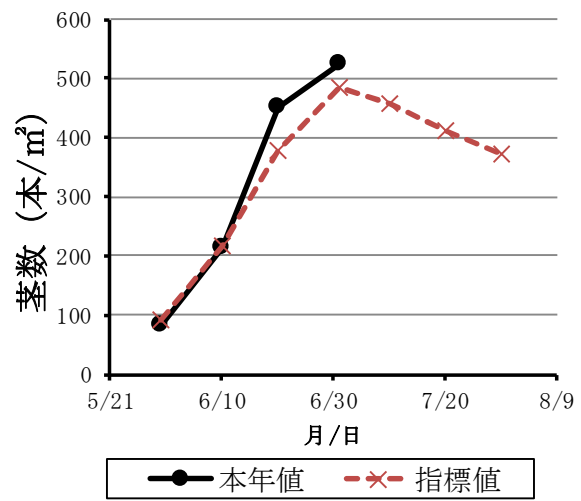
○ 指標値（生育のめやす）に比べ、草丈は「長い」、茎数は「やや多い」、葉数の進みは「やや早い」、葉色は「並」です。

項目	本年値	指標値 (県平均)	指標値 との比較	指標値比・差
草丈	59 cm	51 cm	長い	116%
茎数	524 本/m²	486 本/m ²	やや多い	108%
葉数	10.4 葉	9.9 葉	やや早い	+0.5 葉
葉色 (SPAD 値)	39.3	38.4	並	+0.9

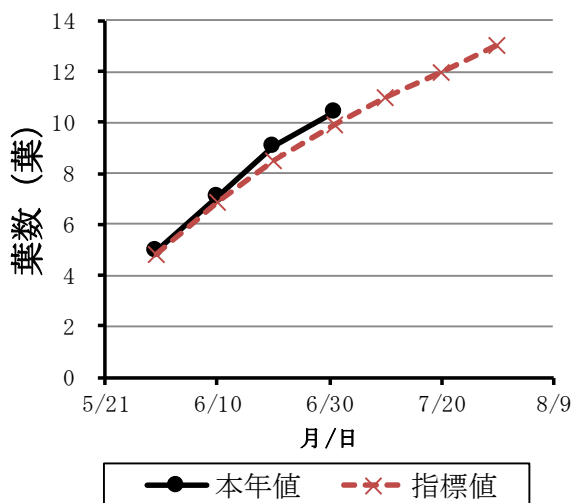
注) 県内全域の15生育調査ほデータの平均値（田植え5月11日、栽植密度16.9株/m²）



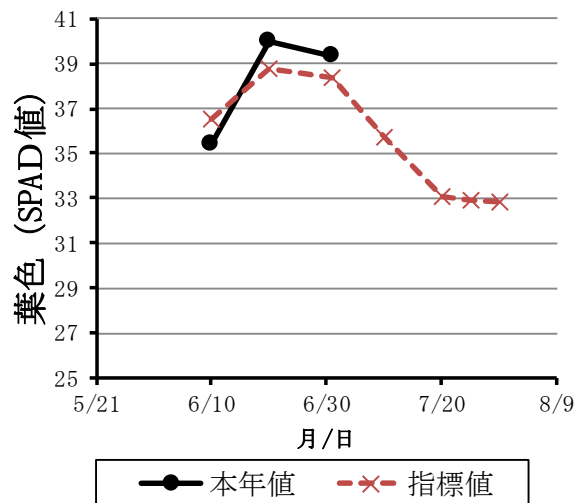
草丈の推移
(県全体)



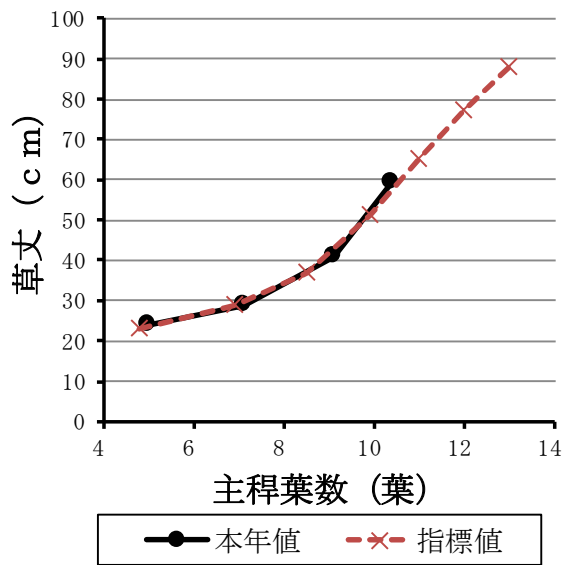
茎数の推移
(県全体)



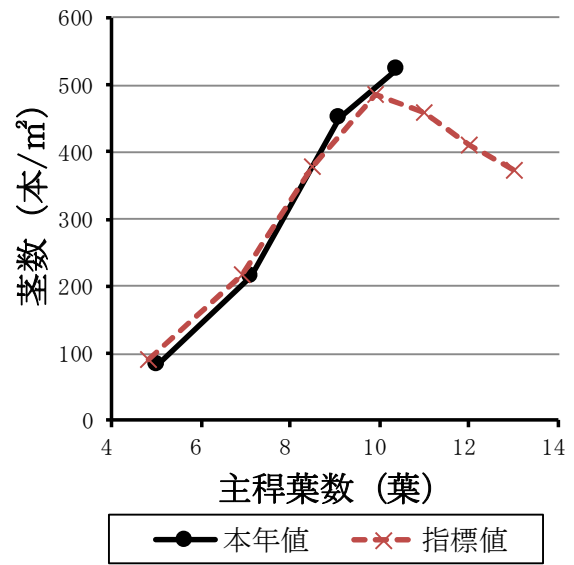
葉数の推移
(県全体)



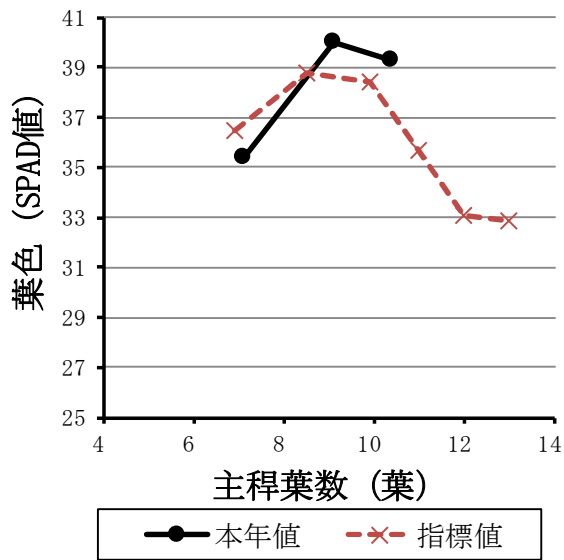
葉色の推移
(県全体)



葉数と草丈
(県全体)



葉数と莖数
(県全体)



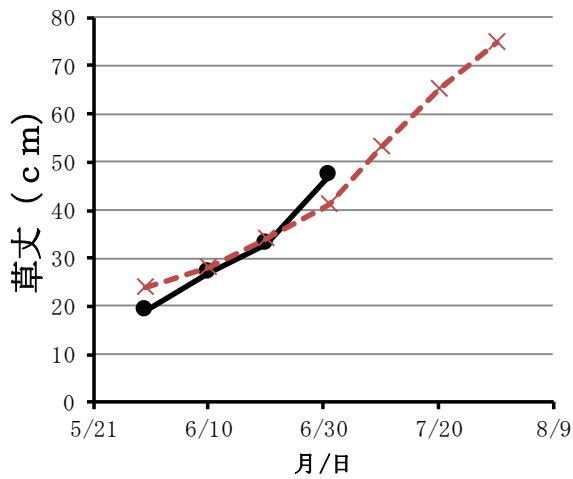
葉数と葉色
(県全体)

新 之 助

○ 指標値(生育のめやす)に比べ、草丈は「長い」、茎数は「やや多い」、葉数の進みは「並」、葉色は「濃い」です。

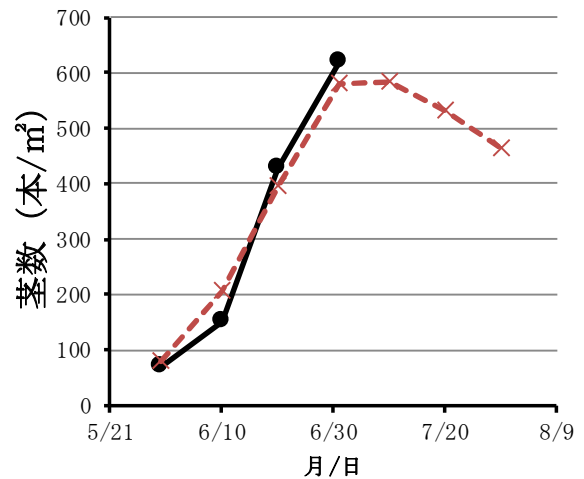
項目	本年値	指標値	指標値との比較	指標値比・差
草丈	47 cm	41 cm	長い	115%
茎数	619 本/m ²	579 本/m ²	やや多い	107%
葉数	10.4 葉	10.1 葉	並	+0.3 葉
葉色 (SPAD 値)	40.4	37.5	濃い	+2.9

注) 県内全域の15生育調査ほデータの平均値(田植え5月18日、栽植密度16.6株/m²)



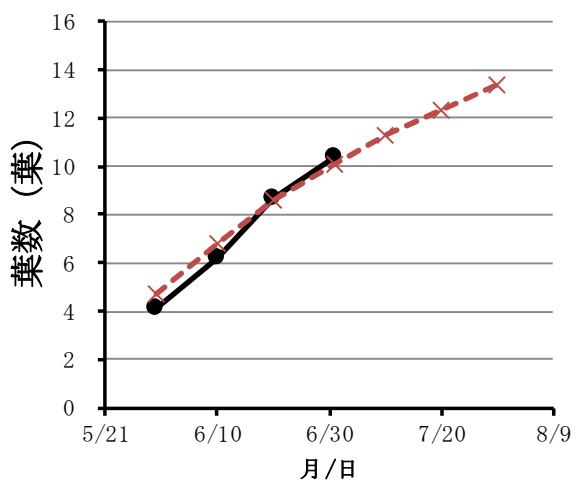
● 本年値 -x- 指標値

草丈の推移
(県全体)



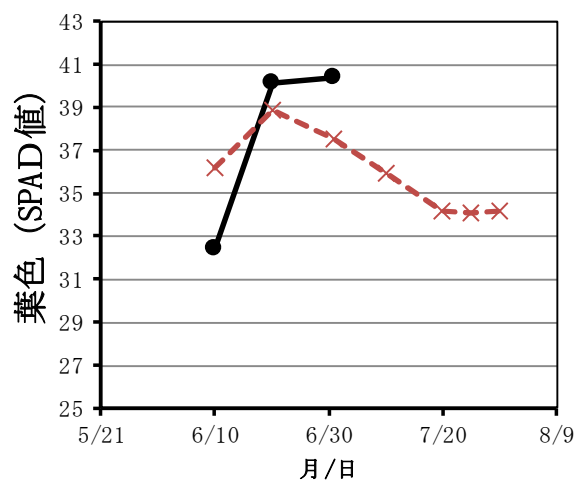
● 本年値 -x- 指標値

茎数の推移
(県全体)



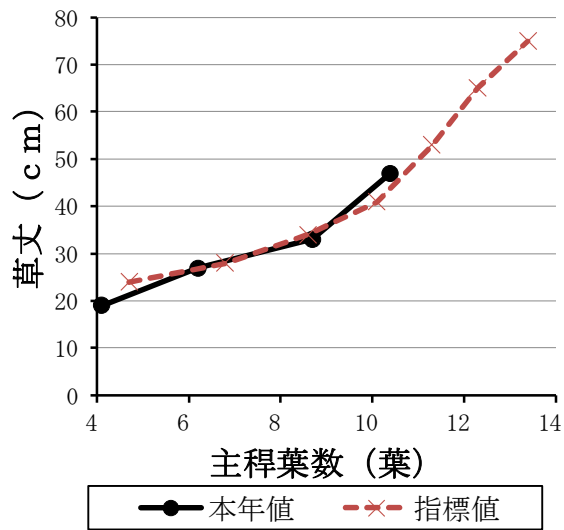
● 本年値 -x- 指標値

葉数の推移
(県全体)

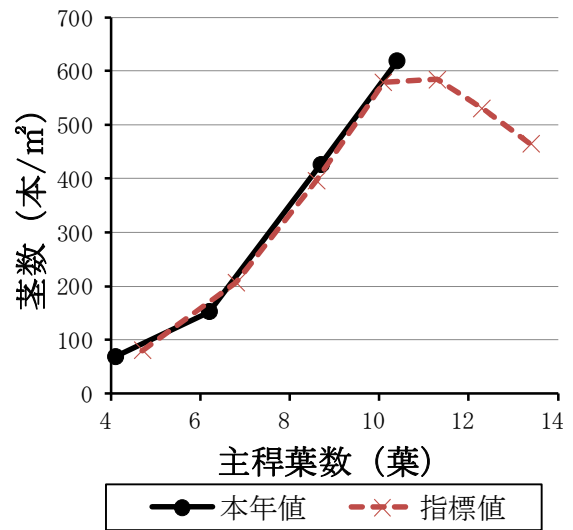


● 本年値 -x- 指標値

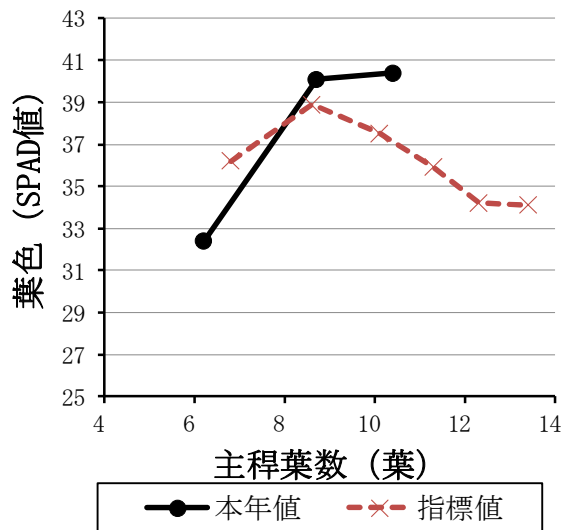
葉色の推移
(県全体)



葉数と草丈
(県全体)



葉数と茎数
(県全体)



こしいぶき (参考)

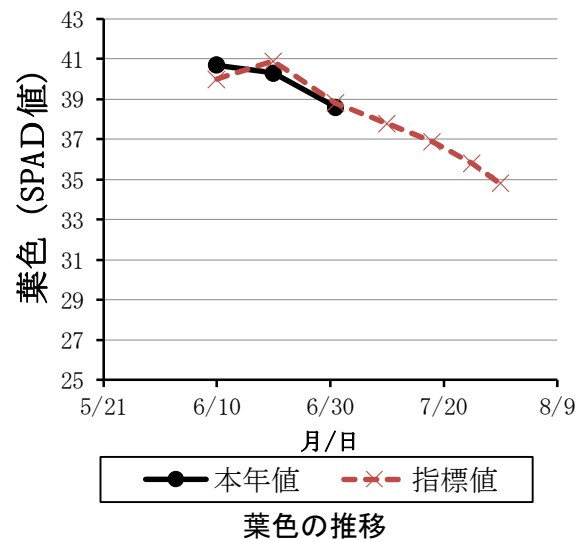
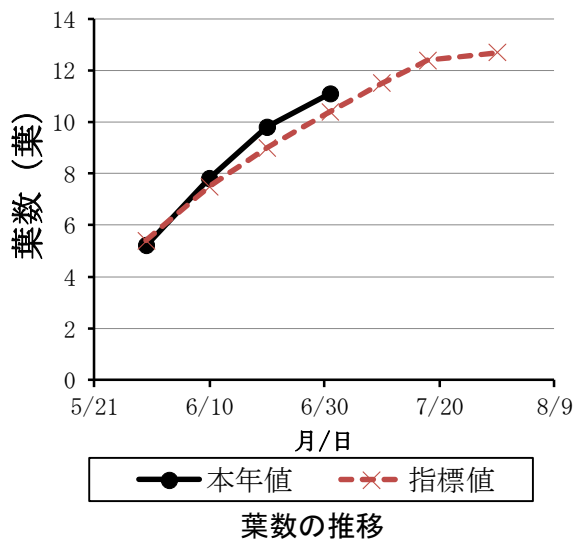
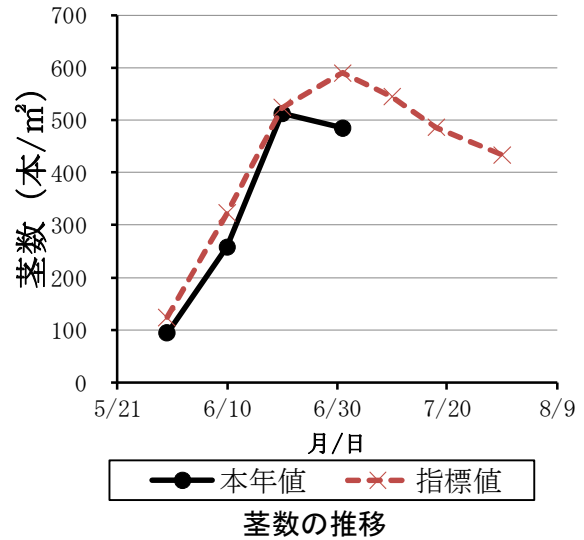
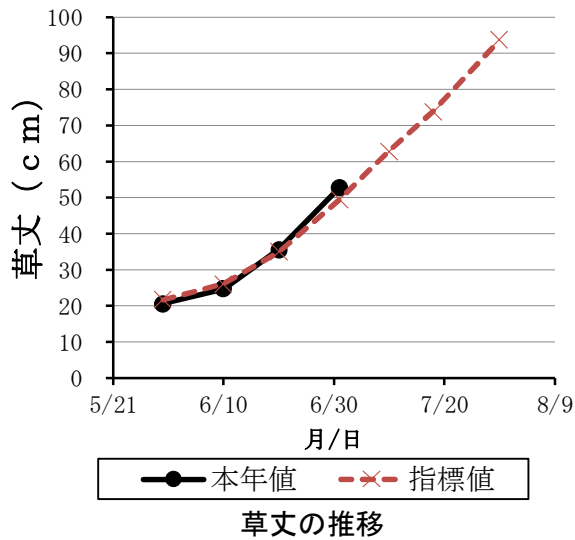
○ 指標値（生育のめやす）に比べ、草丈は「やや長い」、茎数は「少ない」、葉数の進みは「早い」、葉色は「並」です。

項目	本年値	指標値	指標値との比較	指標値比・差
草丈	53 cm	49 cm	やや長い	107%
茎数	485 本/m ²	590 本/m ²	少ない	82%
葉数	11.1 葉	10.4 葉	早い	+0.7 葉
葉色 (SPAD 値)	38.6	38.8	並	-0.2

注1) 化学肥料栽培。田植え5月10日、栽植密度18.1株/m²

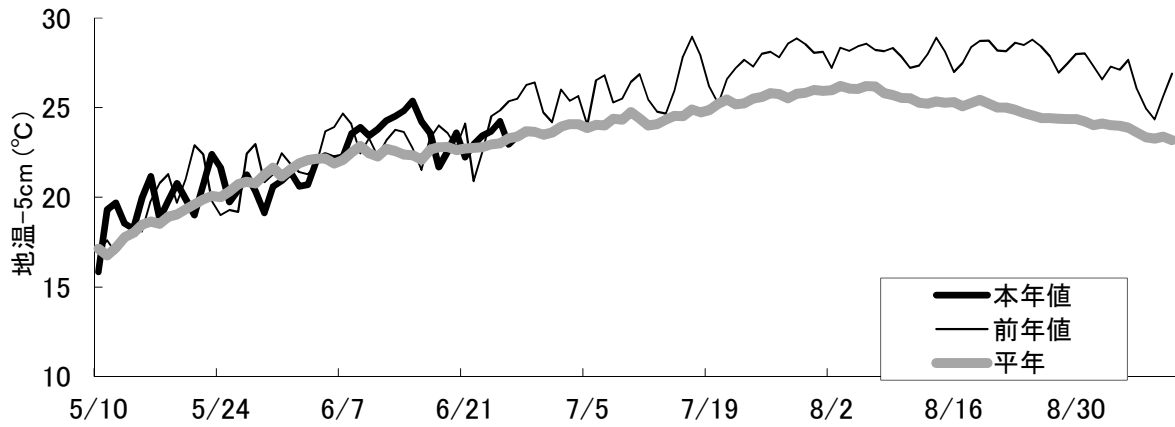
注2) 基肥窒素成分量 3.0kg/10a

注3) 長岡市長倉町（作物研究センター）の生育調査ほデータ

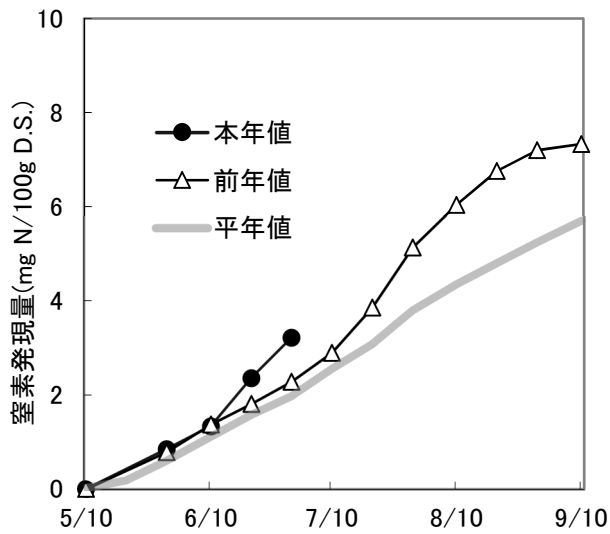


2 ちりょく 地力窒素の発現状況

- 6/20～6/28 の期間の日平均地温は平年差+0.4℃で平年並みに推移しました。この期間の地力窒素発現量は平年より多くなっています。条間窒素含量は 6/28 時点で平年並みでした。

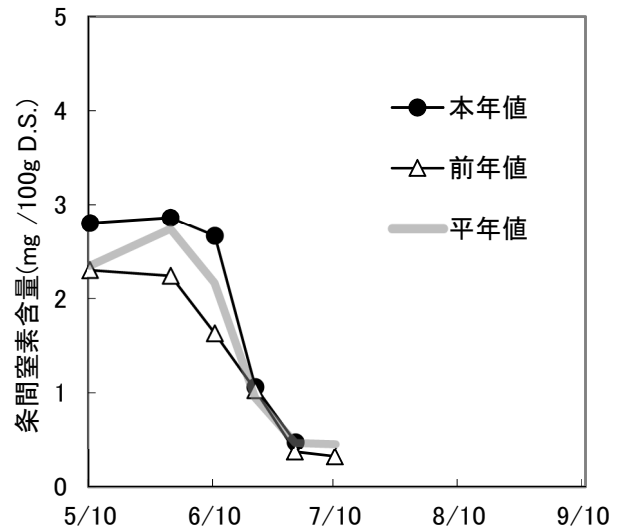


水田地温（5 cm 深）の推移
（農業総合研究所内ほ場、基盤研究部調査）



地力窒素発現量の推移（6月28日）
（農業総合研究所内ほ場、基盤研究部調査）

初期値=0、田植日：5月10日、化学肥料栽培
基肥窒素成分量：3.5 kg/10a



条間窒素含量の推移（6月28日）
（農業総合研究所内ほ場、基盤研究部調査）

田植日：5月10日、化学肥料栽培
基肥窒素成分量：3.5 kg/10a